

## 蒲原城(城山)(市指定史跡)(静岡市清水区蒲原)(城跡公園)

東海一の險難の地に建つ城

駿河国のほぼ中央にあって、東海道を見下ろし、駿河湾や由比・薩埵峠などへの眺望がきくため、駿河の防衛・掌握のための拠点として、今川・北条・武田の三氏が関わった蒲原城。遺構と史料がまとまって残され、特に在城していた人物の動向と変遷がわかる点が歴史的価値を高めています。

遺構 曲輪、土塁、空堀、堀切

城主・城将 今川氏 北条氏 武田氏

関連武将 北条新三郎氏信 武田信玄 武田勝頼

「城と戦国浪漫」による

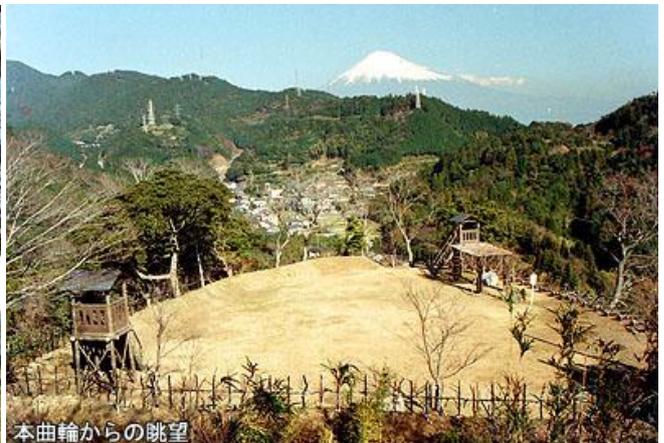
永禄12年(1569)11月、薩埵山砦を落とした武田勢が、その勢いで北条勢力の駿河国蒲原城にも攻めかかった。蒲原城は北条綱重(北条幻庵の子)が城主である。

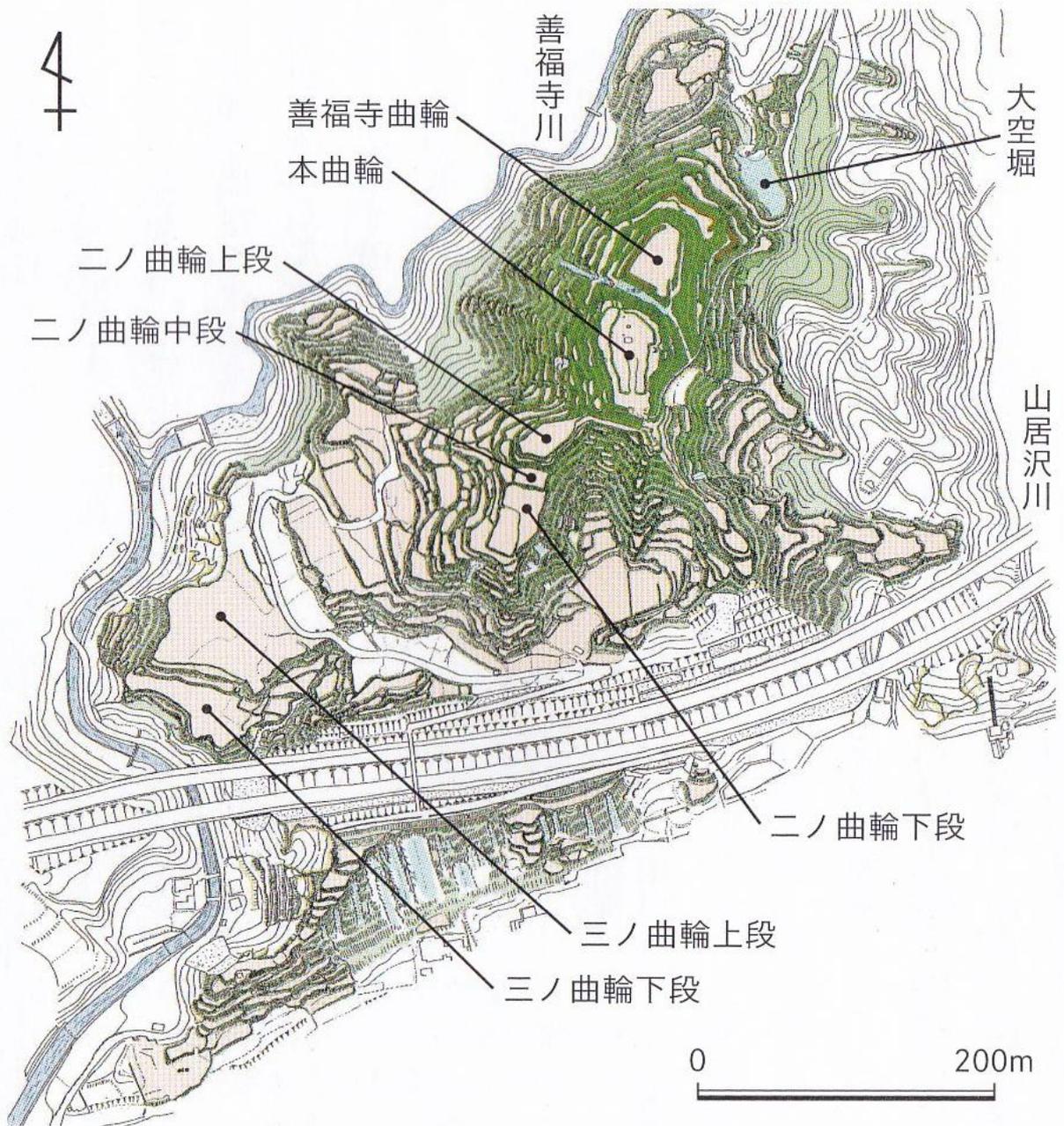
武田勢は12月5日の夜、城下の蒲原宿に火を放ち、翌6日未明には由比・倉沢に布陣した。やがてその本陣には小山田備中守(昌行か)隊だけが残り、他の軍勢は蒲原城を目指して進軍を開始したのである。これを見た城方は、綱重らが本陣を急襲するべく手勢を率いて出撃。しかしそのとき、道場山にいた武田勝頼隊が襲いかかり、同時に武田方の予備隊が城を目指して突撃を敢行したのである。

これを知った綱重は急いで城に戻ろうとしたが、猛追してきた武田勢がなだれ込んできて乱戦となった。蒲原城の城兵1千はよく守ったが武田軍の猛攻の前に綱重らは討死、城は陥落した。

このあと信玄は、その周辺地域の在地領主を組織、編成して「蒲原衆」として城の守りにつかせた。

「戦国猛人」による





蒲原城跡概要図 (作図：関口宏行)